

相談・権利擁護

計画策定時  
(H24～H26)  
の目標

相談支援体制の充実

地域の相談支援の中核的な役割を担う「障害者基幹相談支援センター」を設置して総合的な相談業務を行い、困難事例や虐待防止等に対応。

目標（重点施策）の推移と主な実績

	前期 (H24～H26)	中期 (H27～H29)	後期 (H30～R2)
重点施策	相談支援体制の充実	相談支援体制の充実	相談支援・権利擁護体制の充実
主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者基幹相談支援センターの設置</li> <li>● 障害者虐待防止センターの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援拠点の整備（2か所）</li> <li>● 柏市障害者差別解消支援地域協議会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援拠点の整備（2か所）及びネットワークの整備</li> </ul>

計画期間中の評価

- ◆ 民間への相談支援業務委託や、基幹相談支援センター、24時間相談対応の地域生活支援拠点の設置により、ケアプランの作成や地域における相談支援を充実。
- ◆ 虐待防止センターの設置や差別解消支援地域協議会、権利擁護ネットワーク会議の開催等により、権利擁護体制を充実。

サービス名	単位	H24実績	R2実績
計画相談支援	人/月	18	569
成年後見制度利用支援事業	人/年	1	22

今後の課題

- 相談支援専門員の増加や人材育成に取り組むとともに、多様化・複合化する福祉課題に対応できるよう、相談機関同士の連携強化や総合相談窓口の設置により、地域で安心できる包括的相談支援体制の構築が必要。
- 権利擁護体制の充実を図るとともに、成年後見制度の活用や障害者差別解消法の認知度向上に向けた理解啓発が必要。

第4期計画の方向性

障害者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、包括的な相談支援体制の構築と権利擁護体制の充実に取組み、施策を推進。

⇒ 柱1 みんなで守り寄り添う共生のまちづくり

## 居住環境の整備

障害のある人の「居住の場」を整備。自立した地域生活実現を目指し、地域生活に必要な多様な居住環境の整備及び支援を充実。

### 目標（重点施策）の推移と主な実績

	前期 (H24~H26)	中期 (H27~H29)	後期 (H30~R2)
重点施策	居住環境の整備	在宅生活を支える基盤整備	地域生活を支える基盤整備
主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 強度行動対応型GHの開設</li> <li>● 重症心身障害児者入所施設の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援拠点の整備（2か所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援拠点の整備（2か所）及びネットワークの整備</li> </ul>

### 計画期間中の評価

- ◆ グループホームの整備に取り組み、利用者数増加。
- ◆ 重度の障害児者を受入れるため、重症心身障害者と強度行動障害者を対象とした施設を整備。
- ◆ 相談、体験の機会、緊急時の対応等、障害者の地域生活を一体的に支える地域生活支援拠点を計画的かつ地域ごとに4か所整備。

サービス名	単位	H24実績	R2実績
共同生活援助	人/月	116	343
地域生活支援拠点	箇所	0	4

### 今後の課題

- 高齢化や障害の重度化に直面しても地域で暮らし続けられるように、グループホームの計画的な整備が必要。特に重度の身体障害や医療的ケアが必要な方、強度行動障害等の各障害に特化したグループホームが必要。
- 地域生活支援拠点を中核とした、他の地域資源と連携したネットワークの深化が必要。

### 第4期計画の方向性

地域で安心して生活できるよう、地域生活支援拠点を地域ごとの中核としたネットワークの深化や多様な住まいの確保を推進。

⇒ **柱2 みんなで支え安心して暮らせる共生のまちづくり**

# 就労・社会参加

計画策定時  
(H24~H26)  
の目標

## 就労支援の強化

「柏市障害福祉就労支援センター」を中核に、各関係機関と連携をとりながら障害のある人の就労支援を総合的に実施。

目標（重点施策）の推移と主な実績

前期 (H24~H26)

中期 (H27~H29)

後期 (H30~R2)

重点施策

就労支援の強化

就労支援体制の充実

就労支援体制の充実

主な実績

- チャレンジドオフィスかしわの実施

- 企業向けセミナーの開催
- 就労支援業務委託の開始

- チャレンジドオフィスかしわの拡充
- 障害理解推進を支える拠点の設置

計画期間中の評価

- ◆ 官民連携による就労支援を図り、市内事業所における障害者雇用を促進。
- ◆ チャレンジドオフィスにより、市役所における障害者雇用を推進。
- ◆ 障害者が活動し、障害理解の推進を支える拠点として、改修した教育福祉会館の中に障害者活動センターや障害者等自立支援室、福祉喫茶コーナーといった交流や社会参加の場を開設。

サービス名	単位	H24実績	R2実績
就労移行支援	人/月	75	128
福祉施設から一般就労移行者数	人/年	30	70

今後の課題

- 法定雇用率引上げに伴い、就職者を増やせるよう、関係機関の連携強化を図るなど、多様な就労ニーズに対応できるような就労支援体制の充実が必要。
- 就職後の職場定着に向けた支援体制の構築や、県内平均額に届いていない工賃向上に向けた取組が必要。
- 障害者がさまざまな市民と交流でき、社会参加が促進されるような支援が必要。

第4期計画の方向性

障害者雇用の促進を図るとともに、工賃向上の取組を強化し、障害者が安心して働ける環境づくりを推進。あわせて教育福祉会館内の多様な場を活用した、障害者手帳未所持者への支援や障害者の社会参加・交流を推進。

⇒ **柱3 みんながその人らしく社会参加できる共生のまちづくり**

# 子ども・医療

計画期間中  
(H30～R2)  
の目標

## 子どもの健やかな育成のための支援体制の充実

保健・療育等や学齢期への支援を充実させるため、各関係機関と連携し、切れ目のない包括支援体制を強化。医療的ケアが必要な子どもへの支援を実施。

目標（重点施策）の推移と主な実績

※前期・中期においては「子ども・医療」分野に特化した重点施策は設定なし

前期 (H24～H26)

中期 (H27～H29)

後期 (H30～R2)

重点施策

—

—

子どもの健やかな育成のための  
支援体制の充実

主な実績

- 柏市障害児等医療的ケア支援連絡会の設置

- 児童発達支援センター（2か所目）の開設
- 喀痰吸引等の特定行為ができるホームヘルパーの育成

- 医療的ケア児コーディネーターの配置

計画期間中の  
評価

- ◆ こども発達センターと民間の児童発達支援センターを中核とした児童発達支援を充実。
- ◆ 障害児のニーズに応じた教育を保障するため、インクルーシブ教育システムの構築を推進。
- ◆ 柏市障害児等医療的ケア支援連絡会の設立や医療的ケア児コーディネーターの配置等により、医療的ケアが必要な子どもへの支援体制を構築。

サービス名	単位	H24実績	R2実績
児童発達支援	人/月	118	409
障害児相談支援	人/月	9	179

今後の課題

- 発達や生活についての相談ニーズが引き続き高いことから、多職種・多機関による連携・支援が必要。
- 一人一人のニーズに応じた支援の提供が求められることから、教育環境の整備や教職員の専門性の向上が必要。
- 医療的ケアが必要な子どもへの支援体制の構築・強化に加え、高等部卒業後の資源についての検討が必要。

第4期計画の  
方向性

医療的ケア児や精神障害者を含め、全ての障害者が必要な支援を得ながら他の子どもと共に学び、成長できる環境を構築。

⇒ **柱4 みんなが健やかに成長できる共生のまちづくり**